

CSR REPORT

2016 富士通テングループ CSR報告書 [ダイジェスト版]





社名「富士通テン」の「テン」は、最高・至上を意味する「天」のことです。
中国古典の「中庸」に「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり」という一節があり、
「誠」を企業経営の基本理念として大切にしています。

企業理念

私たちは、「誠」を大切にしてい働きお客様・社会に貢献します。

○お客様第一 品質至上

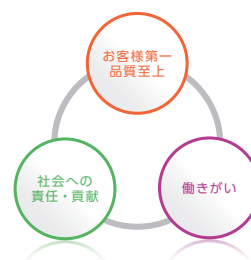
私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く商品を生み出します。

○社会への責任・貢献

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

○働きがい

私たちは、一人一人が誇りを持って働き、能力を發揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。



富士通テングループ 企業行動宣言 (CSR方針)

私たち、富士通テンは、製品の提供を通じて人と車のより良い関係づくりに貢献し、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。この目標を実現するため、私たちは、「誠」を大切にし、「富士通テン企業理念」に基づくこの「富士通テングループ企業行動宣言」を実践してまいります。

□お客様

お客様第一、最高の品質、期待の先を行く製品・サービス
安全性、品質の向上
個人情報の保護

□従業員

人権尊重
強制労働・児童労働の禁止
働きがいの実現
公正な労働条件、安全な労働環境

□取引先

共存共栄の実現
透明で公正な取引機会、公正な関係

□株主

企業価値の向上

□環境

環境負荷の低減

□社会

適切な情報開示
国際ルール、各地域のルールの順守
公権力との公正な関係
反社会勢力との関係遮断

□社会貢献

豊かな社会・地域づくりへの貢献

※「企業行動宣言」の全文は、「CSR報告書【詳細版】」および当社WEBサイトに掲載しています。

編集方針

富士通テングループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとCSRに関する情報をわかりやすく開示し、さまざまなステークホルダーの方々のコミュニケーションを図ることを目的に、毎年「富士通テングループCSR報告書」(2015年版までは「社会・環境報告書」)を発行しています。

2016年版の「CSR報告書【ダイジェスト版】」(本PDF)は、2015年度における重要な取り組みやトピックスを中心に、コンパクトにまとめて報告しています。

また、より詳細な情報を網羅的に報告した「CSR報告書【詳細版】」を、当社WEBサイトで公開しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
ISO26000:2010 - 社会的責任に関する手引き
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン(第4版)」

報告期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)の活動を中心に報告しています。ただし、それ以外の期間の内容も一部含まれます。

本報告書の想定読者

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政などのステークホルダーの皆様を読者と想定しています。

報告対象組織

富士通テングループ全体および富士通テングループ各社の活動を報告しています。ただし一部に、特定の範囲あるいは拠点のみを取り上げたデータや事例を含みます。

将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、富士通テングループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。

したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがありますが、富士通テングループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

CONTENTS

企業理念	1
企業行動宣言	
編集方針	2
トップコミットメント	3
事業のご紹介	
VISION2022：事業ビジョン	5
事業概要	6
つながるサービス「Future Link [®] 」	7
特集 CSR重点課題の特定	9
■お客様第一 品質至上	11
■社会への責任・貢献	
地球環境のために	13
社会・地域とともに	16
お取引先とともに	19
■働きがい	21
■富士通テンの社会的責任	24
財務報告／会社概要	26
第三者意見とその回答	27



人とクルマと社会をつなぎ、 自由で快適なモビリティ社会の 実現に向けて、挑戦し続けます。

富士通テン株式会社
代表取締役社長

山中 明

富士通テングループのビジョンは、事業活動を通じて『人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて挑戦する』ことです。その活動を通じて私たちも持続的に成長したいと考えています。

クルマのICT化を通じて 社会に貢献

クルマや自動車業界が大きく変わり、新たな時代が始まろうとしています。単なる移動手段としてのクルマから、社会や生活の中でのモビリティのひとつとして、コネクテッド・カーや自動運転の技術をめざしたクルマのICT化(Vehicle-ICT)が進んでおり、当社では、カーナビ/ECUの部品サプライヤからクラウド連携車載情報機器・サービス提供事業のシステムサプライヤへの変革をめざしています。

このような中で2014年にキーコンセプトとして『Future Link[®]』を打ち出し、2016年4月には、来たるべきV-ICTの時代に向け、「VICT技術本部」を新設しました。

富士通グループである強みと、私たちが有する車載化技術を融合し、クルマとドライバーのデータを収集・蓄積・処理し、社会や車、個人にフィードバックするというしくみを当社が担うことで、快適で安心・安全、環境に優しいモビリティ社会の実現に貢献していきます。

CSR活動の取り組み

モビリティ社会の中でのCSRの観点としては、2015年9月、2030年に向けた持続可能な開発目標(SDGs)が国連総会で採択され、世界的にCSRの重要性がさらに高まっていますが、当社では2010年2月に作成したCSR方針をもとに、さまざまな活動を推進しています。

環境活動では、2050年のCO₂半減と2020年までの達成目標を掲げた環境中長期VISIONに基づき、2016年5月に2018年までの3か年計画である第8期富士通テングループ環境取り組みプランを策定し、再生可能エネルギーの利用拡大や軽量化など事業を通じた環境貢献の目標を掲げました。

また、社会貢献活動では、豊かな社会・地域づくりに向け、チャリティコンサートへの協賛、女子バレーボール部による「バレーボール教室」などを通じて地域交流を深めています。海外でも富士通テンフィリピン(FTCP)の日頃のCSR活動が高く評価され、フィリピン経済特区庁(PEZA)から「社会貢献活動優秀賞」を受賞し、アキノ大統領よりトロフィーと表彰状が授与されるなど、その活動は地域からも信頼を得つつあります。

私たちが国際社会・地域社会から信頼される企業になれるよう、地域や社会に根ざした活動に引き続き取り組んでまいります。

人づくり／風土改革

「ビジョンを実現させるのは人財である」との考えに立った取り組みを行っています。たとえば、ワークライフバランスの推進として、仕事と育児の両立支援の取り組みでは、2015年5月に次世代認定マーク「プラチナくるみん」を兵庫県下の企業で初めて取得したほか、2016年7月には女性の活躍推進に関する取り組みが認められ「えるぼし」の認定を受けました。

今後もダイバーシティを積極的に活かし、職場力を高めて個人の成長・やりがいの向上につなげることで、従業員一人一人がイキイキと働く職場づくりを進め、「何をやる」のか自ら答えを出し、それに対して責任のある行動をとれる人づくりに取り組んでまいります。

当社のCSR活動の源泉は、当社の社是である『誠は天の道なり』であり、私たちは、「誠」を大切にしながら、お客様・社会への貢献を通して、持続可能な社会の実現に向けて挑戦してまいります。

また、私たちは常にお客様・パートナーとともに成長する企業でありたいと考えています。今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

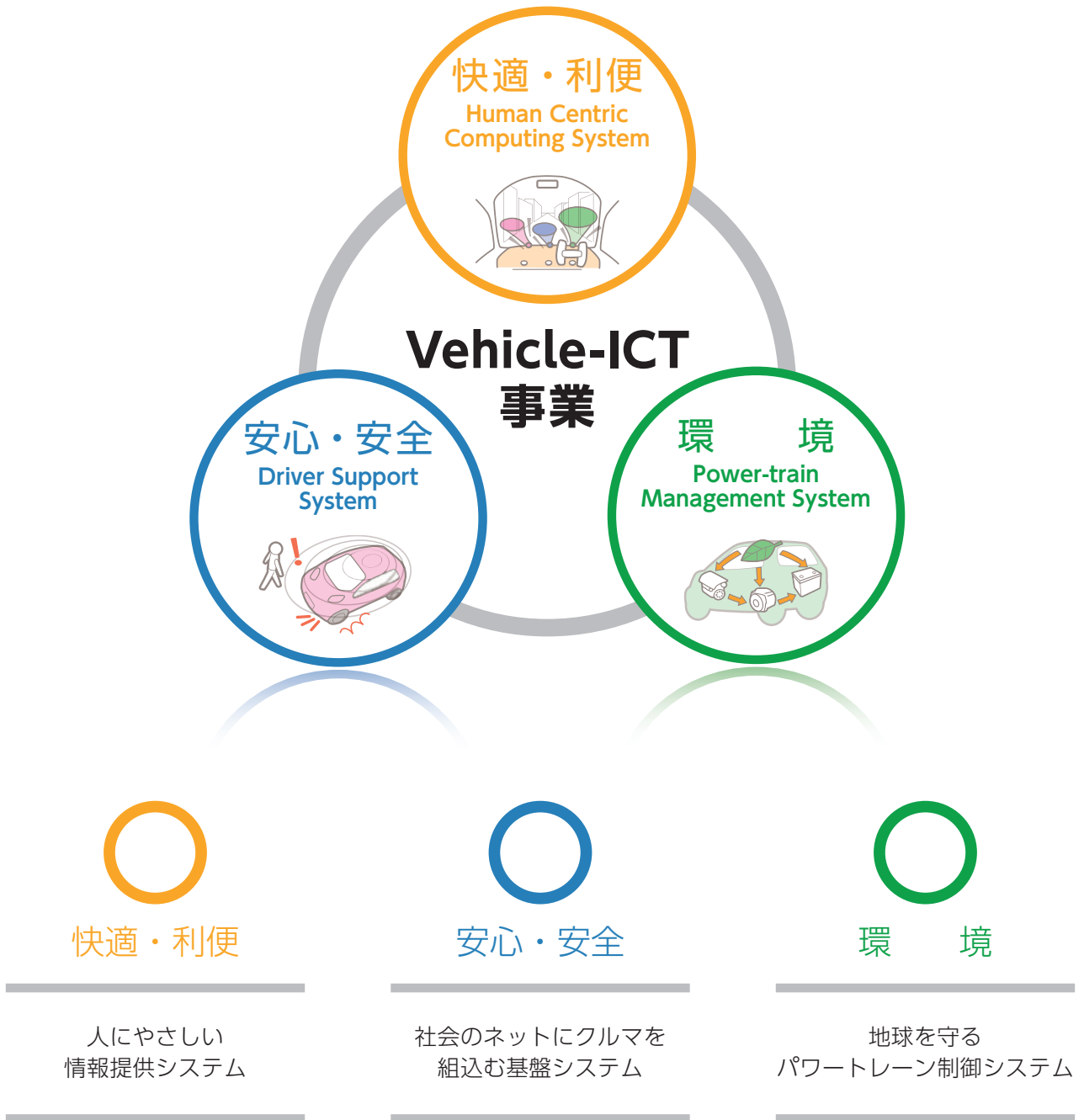


人とクルマと社会の間に、富士通テン

富士通テングループは、これまで培ったクルマづくりの技術とICTを活用した独自の「つながるテクノロジー」で人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

事業ビジョン

人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、
自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献します。



事業領域と製品

ICTによる情報の相互利用、シームレス化に適應し、一人一人に寄り添ったカーライフを実現します

快適・利便



CI事業 (Car Infotainment)

交通状況や駐車場の空き情報、目的地の天気をリアルタイムで情報提供。さらに、ドライバーの気分や健康状態を察し、その日、その人に最適な情報を最適なタイミングでお届けすることをめざしていきます。

カーナビゲーション、ディスプレイオーディオ、CDチューナー



音響システム・アンプ



後席ディスプレイ



ラジオアンテナアンプ



独自のセンシング技術と周辺監視技術により、クルマの安心・安全を社会全体に広げていきます

安心・安全



V-ICT事業 (Vehicle ICT)

クルマと歩行者や街、道路情報をつなぐ安全運転支援システムの実現をめざし、事故を未然に防ぐ、万が一のダメージを最小限にするなど、さまざまな角度から安全運転をサポートする製品を生み出していきます。

マルチアンブレビジョン™



ミリ波レーダー



緊急通報システム



セキュリティシステム



クラウド型タクシー配車システム



クラウド連携ドライブレコーダー



つながるサービス



燃費向上・CO₂排出量削減など移動エネルギーの最適化を実現し地球環境に貢献していきます

環境



AE事業 (Automotive Electronics)

燃費の向上や排出ガスの低減を実現させるシステムの開発に積極的に取り組んでいきます。多様に進化する動力源の効率化や制御する製品により、クルマはもちろん、街、社会全体のエネルギー利用を最適化していきます。

ハイブリッド専用 ECU



電動パワーステアリング ECU



エンジン制御 ECU



エアバッグ ECU



バッテリーマネジメントシステム



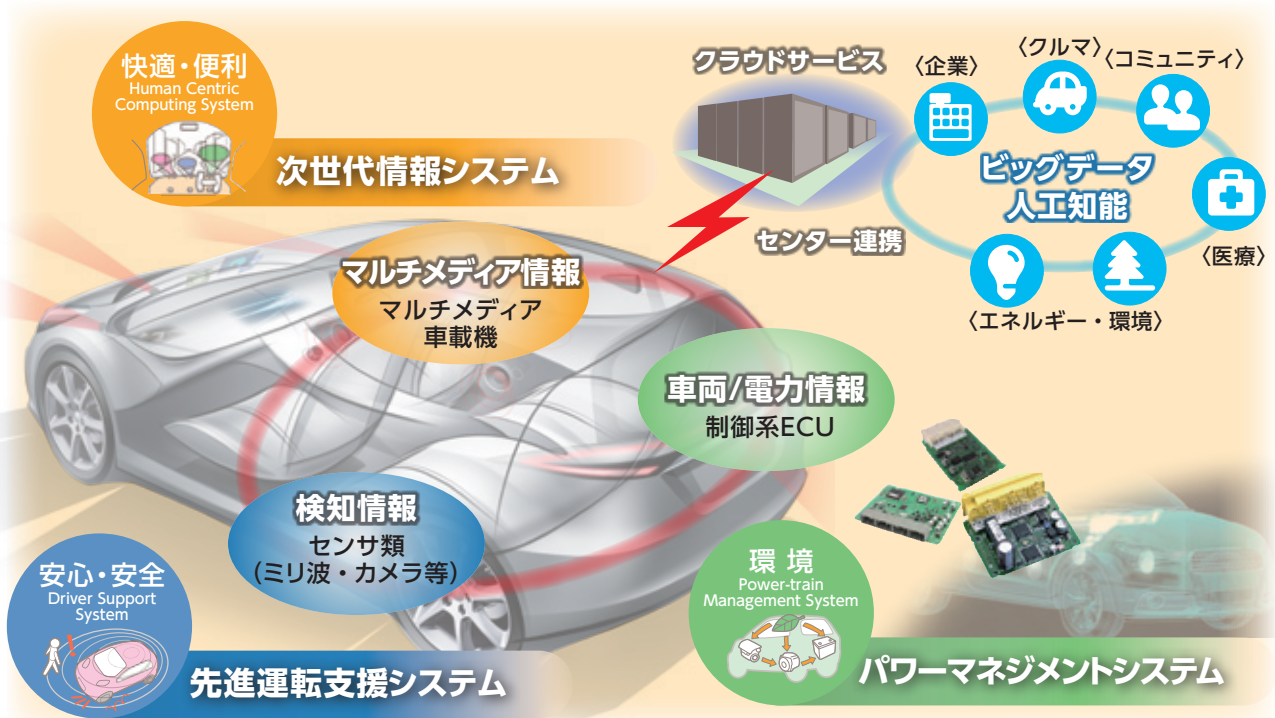
つながるサービス「Future Link[®]」

「人」「クルマ」「社会」のデータをつなぎ合わせて、新たなモビリティライフを提供します。

つながるサービス「Future Link[®]」で新たなモビリティライフを提供

2014年10月、富士通テングループは、「人」「クルマ」「社会」のデータをつなぎ合わせて新たなモビリティライフを提供する製品・サービスのコンセプトを「Future Link」として積極的に推進することを発表しました。

人の運転特性などの「人」に関わるデータ、車載機器や各種センサーから得られる「クルマ」のデータ、インフラやインターネットなどの「社会」のデータをつなぎ合わせ、お客様一人一人に合わせた新たな価値の提供をめざします。



「Future Link[®]」でめざす提供価値

■新たな楽しみを提供

使う人にとって最適なサービスを実現することで、運転する、移動する、クルマを所有するなど、さまざまな楽しみの提供をめざします。たとえば、自宅や外出先で利用していたコンテンツを移動するクルマでも途切れることなく使えるようにすることで心地よいドライブのサポートなどに取り組んでいきます。

■さらなる安心・安全を提供

最適な情報提供による事故軽減や、複雑な操作の解消など、クルマの魅力を手感できる安心・安全の提供をめざします。たとえば、ドライバーの運転スキルなどの人の情報と、蓄積した交通情報などの社会の情報を使って渋滞や危険を先読みし、ドライバーの状態に合わせて必要な情報を、最適タイミングで提供できるよう取り組んでいきます。

■今までにない価値を提供

これまで活用できていなかった人、クルマ、社会のデータで、今までにない価値を提供することをめざします。たとえば、駐車中のクルマの車載カメラを監視カメラとして、自車の盗難防止だけでなく、社会全体の防犯に活用することなどを実現していきます。

Future Link® のコンセプトを実現した製品・サービスの事例

業務用ドライブレコーダー

クラウド連携で安全運転を効率的に支援

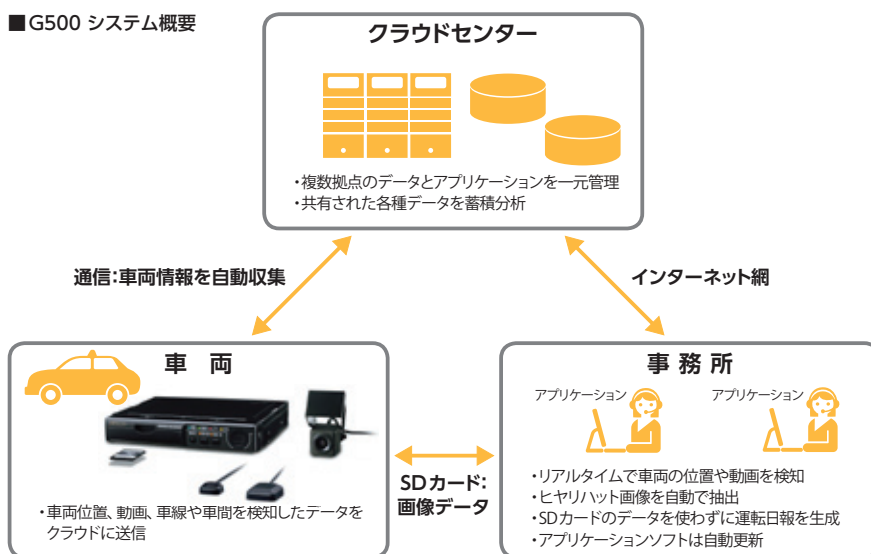
2015年9月に発表した、業務用ドライブレコーダー「OBVIOUS(アヴィアス)レコーダー」の新商品「G500シリーズ」は、走行中に撮影した膨大な記録画像の中から危険度の高いヒヤリハット画像を自動抽出(業界初)し、これまで管理者が目視で検出していた手間を省くことができます。

また、業界最大クラスのイメージセンサーを搭載した高解像度のカメラを採用し、自車両と車線までの距離計測による「ふらつき(車線逸脱)検知機能」と、前方車両との車間距離を計測する「車間距離検知機能」を新たに搭載しました。

これらの計測値は時系列に保存され、運転診断データとして活用します。時間帯別のふらつき度合いの傾向や速度別の車間距離の傾向など、ドライバーごとの運転特性を分析し、安全運転指導・教育に生かれます。ふらつき検知では危険と判断した場合に音声ガイダンスで警告する機能も搭載しています。

また、車両の位置、速度や急加速・急減速、業務開始・終了、荷物積み込み・下ろしなど作業状態のデータは通信ユニット(オプション品)を接続してクラウドに集約することで、リアルタイムで車両の位置や動態を事務所のパソコンでも確認でき、速やかに運行指示や指導が行えます。

■ G500 システム概要



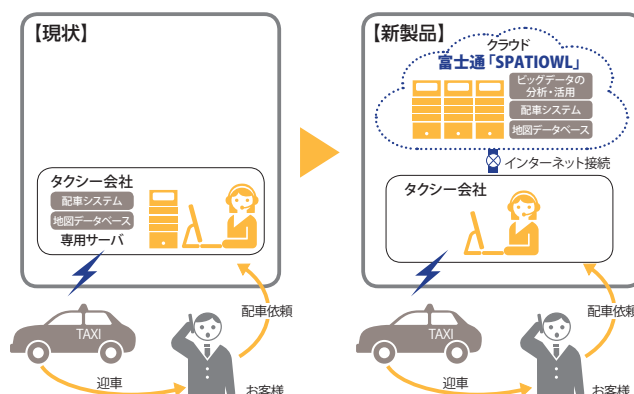
クラウド型タクシー配車システム

初期コスト低減、ビッグデータ活用で配車効率アップ

2015年5月に発表した「クラウド型タクシー配車システム」は、配車を管理する機能をクラウドセンターに集約することにより、従来、タクシー会社ごとに所有する必要があった専用サーバが不要となり、設備導入にかかる初期費用の低減ならびに時間の短縮が図れるほか、24時間の保守体制で障害を迅速に解決できるなどの特徴があります。

また、富士通株式会社の位置情報を活用したクラウドサービスを使用し、気象情報や鉄道の運行情報、イベント開催情報など位置に紐づいたさまざまなビッグデータと連携して、タクシー需要の予測に役立つ情報を分析することで、計画的な車両配置や効率的な流し運行などを実現するサービスを、今後順次提供していく計画です。

■クラウド型タクシー配車システム



CSR重点課題の特定

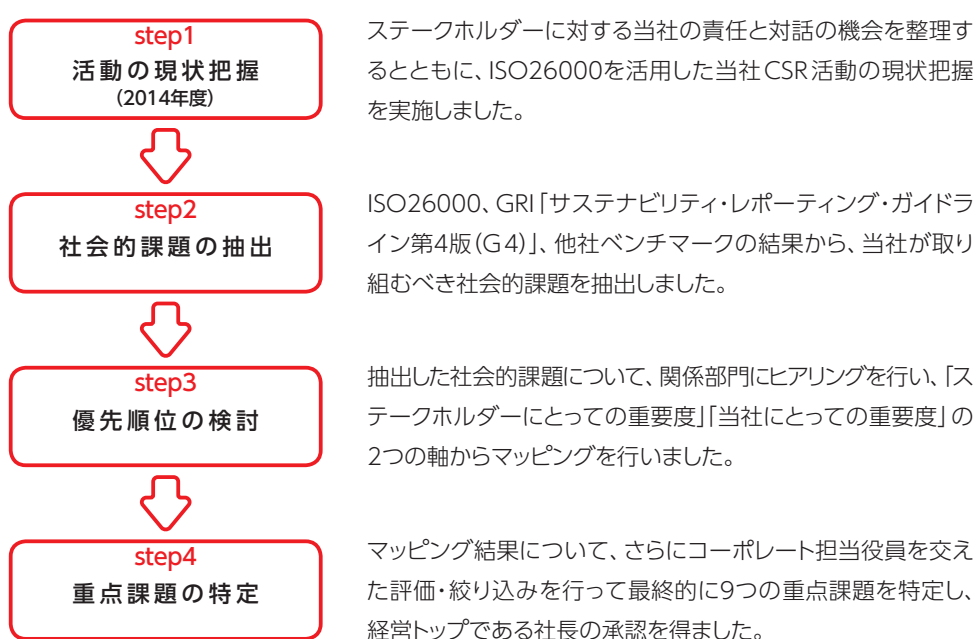
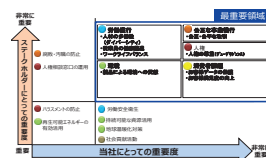
富士通テングループは、「『誠』の精神こそがCSR活動の源泉であり、CSR活動は企業理念に基づく事業活動そのもの」との考えのもと、さまざまな活動を通じてステークホルダーの皆様から信頼される企業をめざしています。

2016年には、よりステークホルダーの期待や要請に沿った富士通らしい活動を進めていくため、優先的に取り組むべき9つの重点課題（マテリアリティ）を特定しました。今後は、これら重点課題の解決に向けたアクションプランを策定し、活動のPDCAを回して行くことで、社会と富士通テングループの継続的な発展をめざします。

富士通テングループのCSR重点課題



重点課題特定のプロセス

重点課題と2015年度の主な取り組み・成果

重点課題		2015年度の主な取り組み・成果	関連ページ
1. 公正な事業慣行	公正・公平な取引	<ul style="list-style-type: none"> ●「オープンで公平・公正な取引」「サプライヤーとの共存共栄」「CSRの推進」を3本柱とする基本方針に基づき、調達方針・重点取り組み事項、およびお願い事項を周知(継続) ●コンプライアンスラインをお取引先にも開放し、お取引先からの通報・相談に対応可能な体制を整備(継続) 	P19-20
	腐敗・汚職の防止	<ul style="list-style-type: none"> ●贈収賄防止ガイドライン(日本語・英語・中国語)を展開 	P25
2. 人権	デューディリジェンス(人権の尊重)	<ul style="list-style-type: none"> ●新入社員の入社時教育や昇級時の階層別研修において、人権関連のプログラムを実施(継続) 	P22-25
3. 消費者課題	お客様データの保護	<ul style="list-style-type: none"> ●「個人情報保護方針」に基づく規定の整備・従業員への周知徹底(継続) ●情報セキュリティ総轄責任者・セキュリティ統制室を新設し、情報セキュリティ保護や啓発活動を実施 	P12 P25
	お客様満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●TS16949認証の維持(継続) ●「QCサークル活動で全員が知恵を出し合う会社へ」をスローガンに、設計部門や関係会社を含め全社でQCサークル活動を推進 ●国内・北米の修理拠点に「高機能リワークシステム」を導入し、電子回路基板の安価な修理と廃棄量の削減を実現 ●熊本地震の被災者を対象にECLIPSE製品(富士通テン市販商品)の特別価格での修理を実施 	P11-12
4. 労働慣行	人材の多様性(ダイバーシティ)	<ul style="list-style-type: none"> ●女性の活躍を推進する「えるぼし」企業の認定(3段階目)を取得 ●女性社員がリーダーシップを発揮するために必要な意識改革・社内ネットワークづくりを目的とした女性社員向けの選抜研修を導入 ●計画的に女性部下を育成するためのマネジメント力向上・意識改革を目的に、管理職を対象とした研修・講演会を実施 	P21-22
	従業員の健康推進	<ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病予防に向けた、セミナー開催・健康指導による従業員の健康意識の啓発(継続) ●産業医や産業カウンセラーによる心のケア、高ストレスを抱える希望者に対する面談・フォローを実施(継続) 	P23
	ワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> ●「プラチナくるみん」を取得 ●育児休職者の交流会を実施 	P21
5. 環境	製品による環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパーグリーン製品として、前モデル比35%以上の軽量化を達成した「エアバッグECU」など2製品を認定 	P15
		<ul style="list-style-type: none"> ●第8期 環境取り組みプランに「全新規製品設計における軽量化設計推進」「環境貢献技術の取り組みの全技術本部への拡大」を盛り込み 	P13

ステークホルダーとの対話の機会

ステークホルダー	対話の機会・ツール	ステークホルダー	対話の機会・ツール
お客様	お客様訪問による情報交換 お客様相談窓口(電話・Eメール) ユーザーアンケートはがき 展示会(モーターショー/技術展示会)	株主	株主総会 各種説明会 事業報告書・アニュアルレポート
従業員	職場力向上アンケート イントラ社内報 上司面談 相談窓口(人権/キャリア/こころの健康) 定例労働協議会 コンプライアンスライン	環境	CSR報告書 近隣企業との環境交流会 環境展示会への出展 地域環境保全活動への参加
取引先	仕入先総会/生産動向説明会 天栄会(総会/各分科会) 自主点検調査(品質/環境/CSR) コンプライアンスライン	社会(地域)	定期的な対話会・情報交換会 地域行事への参加・協賛 工場見学・工場招待イベント 地域防災福祉コミュニティへの参画 地域社会への貢献活動

お客様と「誠」の心で向き合う

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努めることで、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。

TOPICS

東京モーターショー2015に富士通株式会社と共同出展 ～ ICTを活用した近未来のカーライフをプレゼンテーション～

2015年10月に開催された「第44回東京モーターショー」に、富士通テンは富士通株式会社と共同出展しました。「ICTでクルマは人のベストパートナーに。」をテーマに、映像プレゼンテーションや先行技術・最新製品のデモンストレーションによって、ICTを活用して実現する自由で快適な近未来のカーライフを提案しました。



大人から子どもまで、幅広い年齢層の方々に近未来のカーライフをご体感いただきました

TOPICS

平成28年熊本地震の被災者に、特別価格での修理を実施

当社は、平成28年熊本地震により被害を受けられた地域にお住まいの方で、なおかつECLIPSE製品(富士通テン市販商品)をご愛用のお客様を対象に、修理を特別価格で承る取り組みを実施しました。当社お客様相談窓口のフリーダイヤルで修理のご依頼を受け付け、最寄りの認定サービスショップなどが、通常価格から30%を割り引いた価格にて修理を実施しました。

お客様相談窓口の取り組み

市販製品に関するお客様からのお問い合わせに対して、お客様相談窓口では、「一人一人のお客様に寄り添う対応」をモットーに、つながりやすく質の高いコールセンターをめざして、日々、改善に取り組んでいます。また、お困りごとや製品・サービスへのご要望、お褒めの言葉や広告への反響なども含めて、お客様の声を社内へフィードバックする活動も行っています。

WEB ECLIPSE お客様サポート

カスタマーサービス体制

国内では、全国93拠点の認定サービスショップ(以下SS)が製品の修理を担い、全国7か所のフィールドサポートセンター(以下FSC)が故障診断など技術面でSSを支援しています。海外では現地法人10拠点、FSC14拠点、SS90拠点の体制を構築しています。

修理面においては、2015年度、電子回路基板の安価な修理、廃棄量削減を推進すべく、国内、北米の修理拠点に「高機能リワークシステム」を導入し、電子回路基板の安価な修理、廃棄量削減を実現しました。



集中修理拠点に「高機能リワークシステム」を導入



Voice
従業員の声

長瀬 信
カスタマーサービス部
広島FSC

広島FSCでは、中国地方5県を中心にフィールドサポート活動を担当しています。私のモットーは「お客様のために何ができるか、日々考えながら行動する」です。地域に密着したフィールドサポート活動を推進する中で、お客様の生の声を頂戴する機会が多く、いただいた声を、社内関連部門へフィードバックし、お客様ニーズにあった製品づくりに貢献しています。また、販売店

様やSSへ、全国のFSCから集約した情報を伝達し、迅速かつ確かなアドバイスや故障診断ノウハウの提供により、お客様のご不満の早期解決に向けて取り組んでいます。

今後も当社製品をご購入いただいたお客様のことを第一に考え、フィールドサポート活動を推進します。

お客様の個人情報保護

当社グループは、お客様の氏名、住所、メールアドレスなど特定の個人を識別できる個人情報を適切に取り扱うことは、企業としての社会的責務であるという認識のもと、「個人情報保護方針」に基づいて規定を整備し、従業員への周知徹底を図るなど、個人情報保護の取り組みを実施しています。

品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするため、ISO/TS16949、ISO9001の国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点で品質向上のためのサイクルを回しています。また、「富士通テングループ製品安全憲章」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で、品質および製品安全面の確保を行っています。



品質展示会では、品質に関するお客様の生の声を訴求するパネルを展示

品質意識の向上・人財育成

2015年度は「QCサークル活動で全員が知恵を出し合う会社へ」をスローガンに、活動を休止していた設計部門や、これまで未実施であった関係会社も含め、全社をあげて活動を展開。活動テーマは2014年度比3倍を達成し、全員参加でテーマを完遂しました。併せて、引き続き、11月の品質月間に品質事例展示会をはじめとする多彩な活動を実施しました。

QCサークル(小集団改善)活動は、「人財育成・職場活性化・会社貢献」の基本理念のもと、職場の問題・課題について品質管理手法を使い、メンバーと協力して解決していく活動です。

設計部門では活動を一時休止していましたが、2015年度から全社化したため、当サークルは活動が初めてのメンバーも多く、苦労もありました。しかし、全員で知恵を出し合い、目標を達成することができました。その活動が社内の優秀事例のひとつに選ばれ、さらに初めての社外発表会でも賞をいただけたことは、大きな励みになりました。今後も継続して設計品質向上に取り組んでいきます。



Voice
従業員の声

(写真左から)福田 孝作 眞田 浩昌 重井 貴史
VICT技術本部 センサ技術部 第三技術チーム

美しい地球を次の世代に引き継ぐために

地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、企業活動のあらゆる領域で、環境負荷低減を進めます。

TOPICS

「第8期 環境取り組みプラン」を策定

2016年4月、2016年度から2018年度の3か年を活動期間とする「第8期 環境取り組みプラン」を策定しました。

第8期からの新たな取り組みとして、グリーンサイトの分野で「再生可能エネルギー^{*1}の利用拡大」「廃棄物再資源化率の向上」、グリーンプロダクツの分野で「全新規開発製品における軽量化設計推進」「環境貢献技術の取り組みの全技術本部への拡大」を、それぞれ掲げました。

■ 第8期 環境取り組みプラン

分野	取り組み目標
グリーンサイト (生産)	温室効果ガス排出量(絶対量)を2018年度末までに2011年度比で13%削減する(国内)
	温室効果ガス排出量(生産高当り)を2018年度末までに2011年度比で27%削減する(グローバル ^{*2})
	再生可能エネルギーの利用を拡大する
	廃棄物排出量(生産高当り)を2018年度末までに2011年度比で46%削減する(グローバル)
	廃棄物再資源化率を2018年度末までに96%以上にする(グローバル)
	水資源使用量(生産高当り)を2018年度末までに2011年度比で37%削減する(グローバル)
	化学物質(PRTR対象物、VOC) ^{*3} 使用量を2018年度末までに2011年度比で46%削減する(グローバル)
グリーン調達・ グリーン物流	輸送における売上高当りのCO ₂ 排出量を2018年度末までに2011年度比で31%以上削減する
グリーンプロダクツ	全ての新規開発製品において、2018年度末までに2014年度比平均5%軽量化する
	環境貢献技術を全技術本部に拡大し、2018年度末までに各事業より1件以上提案する
マネジメントシステム	環境・安全のグローバル複合マネジメントシステムへの改定版規格への移行を2018年度末までに完了させる

*1 再生可能エネルギー：太陽光、風力、水力など自然界に常に存在するエネルギーであり、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となるCO₂をほとんど排出しない、クリーンなエネルギー

*2 グローバル：国内+海外

*3 PRTR：Pollutant Release and Transfer Register（環境汚染物質排出・移動登録制度）

化学物質を使用している企業が、工場等の操業によって環境中に排出したり廃棄物として処理している化学物質の量を把握して、国や地方自治体などの行政機関に報告し、行政報告されたデータをまとめて一般に公表する制度

VOC：揮発性有機化合物（Volatile Organic Compounds）の略称で、塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質

Voice 従業員の声



山本 崇
地球環境室長

第7期 環境取り組みプランは、最終的に目標を大幅に達成することができました。しかし世界の潮流は常に動いており、企業への期待や要求は高まる一方です。

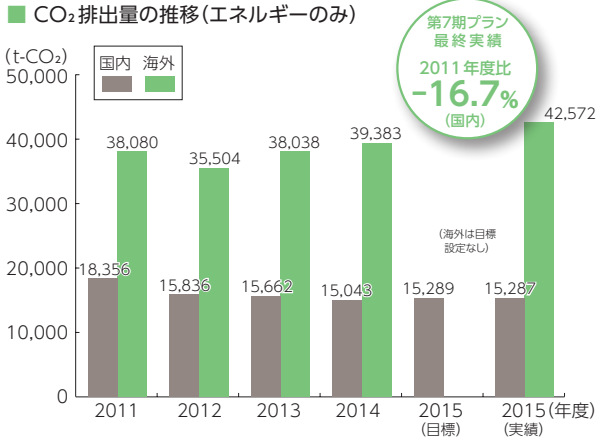
第8期の活動目標もチャレンジングであり、一層のグループ各社の協力と努力が必要です。連携を第一にしっかり活動して行きたいと思えます。

グリーンサイト —地球温暖化対策—

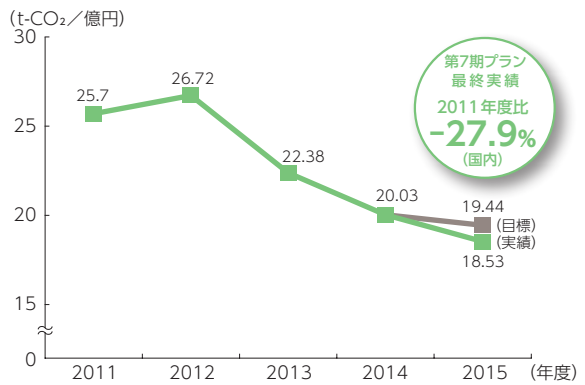
国内におけるエネルギー消費によるCO₂排出量は、2011年度比 -16.7%(15,287t-CO₂)となり、「2011年度比で16.7%削減する」という目標を達成しました。

また、グローバルでのCO₂排出量原単位は、2011年度比 -27.9%(18.53t-CO₂/億円)となり、「2011年度比で13.8%削減する」という目標を達成しました。

■ CO₂排出量の推移(エネルギーのみ)



■ 生産高当りのCO₂排出量原単位の推移(エネルギーのみ)



改善事例

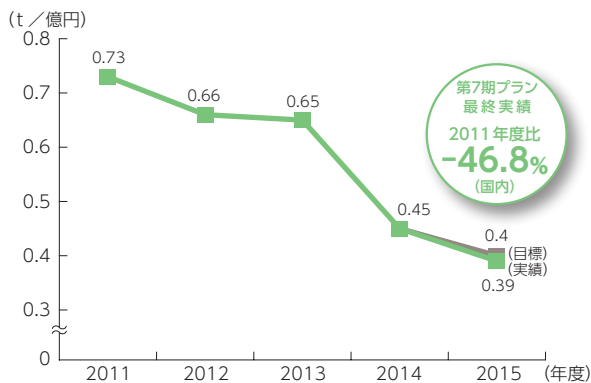
富士通テンフィリピン(FTCP)では、フラクサーなどの製造設備の一部を改良し、機械の稼働時間以外はセンサーで自動的に電源を落とすしくみを導入し、年間約19tのCO₂を削減しました。



グリーンサイト —廃棄物減量化対策—

グローバルでの廃棄物排出量原単位は、2011年度比 -46.8%(0.388t/億円)となり、「2011年度比で17.2%削減する」という目標を達成しました。

■ 生産高当りの廃棄物排出量原単位の推移



改善事例

富士通天電子(無錫)(FTEW)では、基板パレットの洗浄廃液のリサイクル設備を導入することにより、年間約4KLの廃棄物削減になりました。



グリーン物流 —物流改善による温暖化対策—

CO₂、NO_xの排出量低減をめざして、輸送ルートの見直しや荷姿およびコンテナの積載効率の改善により、トラック台数、コンテナ数の低減に取り組んでいます。2015年度は、国内定期便の量変動に即応した最適な配車計画に取り組み、お客様や輸送会社と納入ダイヤの再編(お客様と納入リードタイム調整など)を実施した結果、トラック台数の減便による環境負荷を削減することができました。

グリーンプロダクツ

TOPICS

スーパーグリーン製品を2製品認定

製品環境アセスメントで一定の基準を満たした上で、環境配慮レベルがトップグループレベルにある製品を「スーパーグリーン製品」として認定しています。

2015年度は、前モデル比50%以上の軽量化を達成した「盗難防止サイレン」と、前モデル比35%以上の軽量化を達成した「エアバッグECU」の2製品を認定しました。



エアバッグECU (左：従来製品 右：開発製品)

マネジメントシステム

TOPICS

富士通テングループ環境貢献賞を新設

2016年4月、環境に配慮した製品や技術、日頃から環境に関する地道な取り組みや効果的な活動を行っている拠点・事業所の中から、「グリーンサイト・オフィス」「部門の本業」「製品・サービスを通じた貢献」「社会貢献、企業イメージ向上」の4カテゴリで、それぞれ優秀な取り組みを表彰する「富士通テングループ環境貢献賞」を新設しました。

2015年度は天津富士通天電子の「空調エネルギーの動力源の見直し」など大賞3件、優秀賞4件、特別賞5件が表彰されました。



Voice 従業員の声

李 義文
天津富士通天電子

天津富士通天電子の活動が「環境大賞」を受賞し、とても嬉しく思います。

受賞対象となった活動は、地球温暖化対策として進めてきたものですが、社会への貢献にも

つながるものであり、大きなやりがいを感じています。今後も、さらに効果的に環境保全活動を進めていきたいと思っています。

環境リスク対応

富士通テン本社および国内の全生産拠点で、水質・大気・騒音・振動に関する法規制値より厳しい自主基準値を設けて、定期的な監視を行っています。

なお、2015年度は、環境関連の緊急事態の発生および苦情・事故・訴訟・罰金の科料はありませんでした。

より豊かな社会・地域づくりに向かって

企業行動宣言 (CSR方針) に基づき、社会の一員として多彩な活動を展開しています。

2015年度の取り組み

2015年度においては、『『地域活動分野』に重点的に取り組み、拡大を図る』という方針のもと、取り組み件数の拡大、従業員ボランティアの延べ人数増加をめざして活動を展開しました。

環境貢献活動においては、「環境貢献活動」「生物多様性保全活動」として、「全拠点でそれぞれ1件以上」を目標とし、その目標を達成しました。

TOPICS

FTCPが「社会貢献活動優秀賞」を受賞

富士通テンフィリピン (FTCP) は、フィリピン経済特区庁(PEZA)の「社会貢献活動優秀賞」を受賞し、2016年4月、表彰されました。

■FTCPの主な社会貢献への取り組み

環境保全、生物多様性、地域貢献、福利厚生に重点を置き、次にあげるようなCSR活動を継続的に実施していたことが評価され、今回の受賞に至りました。

- ・ 2,500本以上の植樹
- ・ マキリング山の森林保全活動
- ・ ラグナ地区の小学校への栄養教育のキャラバン
- ・ 社会的弱者への援助(孤児への学用品、生活必需品の寄付、献血)
- ・ 環境活動を実施するための基金を集めるためのマラソン大会実施協力
- ・ FTCP従業員のボランティア活動の啓蒙(2015年度は、約15種類の活動を年間延べ90日、従業員参加数延べ900名)



アキノ大統領(当時)からトロフィーを受け取るFTCP川端社長



Ronald Teves
FTCP 総務部長

Voice 従業員の声

私たちが行ってきた数多くのコミュニティプロジェクトに関してフィリピン大統領から表彰をいただいたことを大変誇りに感じています。従業員ボランティアが根気強く活動し

たこと、また、達成感を見出しながら見返りを期待することなく環境保全活動、社会的弱者への支援を行ったことが今回の受賞につながりました。

TOPICS

学生、若手のCDレコーディングを支援

「音に携わる企業」として、「音を通じて社会に貢献する」という考えのもと、コンサートへの協賛、チャリティコンサートの開催のほか、若手アマチュアジャズミュージシャンや、高校生・大学生のバンドのレコーディングを支援しています。



Voice
レコーディング
参加者の声

黒田 のぞ美 さん
関西学院大学
K.G.SWING
CHARIOTEERS2015
バンドマスター
写真右、左はコンサートマスター・水元忍さん



当社エンジニアがアマチュアバンドのCD録音をサポート

このような本格的なレコーディングは、普段できないことなので嬉しかったです！普段使っているものとは全く違う、良い機材を

使わせてもらって皆テンションが上がりました！このような機会をいただいて、本当にありがとうございます。

地域活動

地元に着した地域貢献活動に重点的に取り組んでいます。

2015年7月～11月に、神戸・中津川・小山の3地区で近隣の小学生を対象とした「工作教室」を開催したのをはじめ、「神戸マラソン」での給水ボランティアなどを行いました。



神戸の工作教室では、ソーブモックボックスカーを作成 (2015年7月)



神戸マラソンの給水ボランティア (2015年11月)



Voice
従業員の声

森脇 忠将
人事総務部

今回の給水ボランティアでは、スペシャルドリンクを配給する係を担当しました。スペシャルドリンクとは、数人の主力選手があらかじめ用意していたマイドリンクのこと。一目で自分のものと分かるよう派手に装飾されており、見ていて楽しかったです。私はこれまで、マラソンへの出場はおろか、沿道やテレビで観戦したことすらあり

ませんでした。しかし、配給活動をしなが声援を送る中で、選手たちが切る風や必死の熱意を間近で感じ、ジーンとするような感覚を味わいました。ゴールへとひた走る人々から、これほどまで感動を得られるとは知りませんでした。来年も是非、神戸マラソンのボランティアに参加したいと思います。

社会福祉分野の活動

富士通テン社会貢献基金より、福祉施設・団体などへ楽器・音響機器をはじめとする寄贈を行い、音楽療法や青少年の育成などに役立てていただいています。2015年度は、神戸市、仙台市の社会福祉施設へ、それぞれ大正琴・トーンチャイムを寄贈しました。



NPO法人ボレロへ大正琴を寄贈

文化・スポーツ分野の活動

スポーツの分野では、当社の女子バレーボール部である「レッドフェニックス」が、「バレーボール教室」を開催する一方、音に関わる活動として、中高・大学生が出演するコンサートやイベントへの協賛、軽音楽部によるチャリティコンサートなどを行っています。



サンデン女子バレーボール部と協力し、「復興支援バレーボール教室」を開催（福島県相馬市）

収集活動

誰でも気軽に参加できる活動として、従業員に広く参加を呼びかけています。

2015年度はランドセル・学用品、楽器、エコキャップなど全15アイテムを収集し、寄付・寄贈しました。



ランドセル



学用品



楽器

環境貢献活動

従業員によるクリーン作戦をはじめとする環境貢献活動や、植樹や希少動物保護などの生物多様性保全活動を、グループ全拠点で年1回以上実施しています。



富士通電子（無錫）（FTEW）
十八湾で植樹を実施



富士通テンリフレッシュズフィリピン（FTSP）
ウミガメの子どもを海へ帰す活動に参加

お取引先とのパートナーシップ

お取引先と共存共栄の関係を構築し、サプライチェーン全体で、社会、地球への責任を果たすよう努めています。

基本的な考え方

調達の基本方針として、「オープンで公平・公正な取引」「サプライヤーとの共存共栄」「CSRの推進」の3本柱を掲げ、調達方針および重点取り組み事項、またお取引先へのお願い事項を、仕入先総会、期待値活動などを通じて、お取引先に周知をお願いしています。

WEB [お取引先さまへ](#)

2015年度の活動方針、目標と実績

2015年度は、仕入先総会・期待値活動にて「圧倒的な競争力を身に付ける」、「磐石なリスク管理体制を備える」を方針として掲げ、「品質・コスト・納期・技術・環境保全」に関連する諸活動を行ってきました。

そのような活動を展開するなかで、「改訂グリーン調達ガイドライン」(第6版)をお取引先に展開し、国内外のグループをあげて、環境パフォーマンスの向上に取り組みました。また、お取引先の生産場所情報をリアルタイムに把握するためのシステム「SCR-Keeper」の運用を海外にまで拡大しました。

TOPICS

天栄会が20周年記念行事を開催

お取引先97社と富士通テンから成る協力会「天栄会」は、2015年度、結成20周年を記念して、トヨタ自動車九州見学会、記念植樹、特別時局講演会などを執り行い、相互の交流をさらに深めました。



トヨタ自動車九州見学会には77社、86名が参加(当社除く)

「改訂グリーン調達ガイドライン」を展開

2015年3月、環境負荷物質への対応、CO₂削減を目的とした施策をお取引先に実行いただくため、グリーン調達ガイドラインを改定(第6版)し、国内外のお取引先へ展開しました。

WEB グリーン調達ガイドライン第6版

WEB 仕入先CSRガイドライン



Scope3に対応したお取引先との連携活動

海外のお取引先を含めて、CO₂削減の重要性をお伝えし、輸送や梱包改善の取り組みを推進しています。

2015年度は、Scope3*に対応したお取引先と連携して活動を展開しました。また、廃棄物となる梱包材の削減、輸送距離の削減に取り組み、削減目標を上回る成果を得ることができました。

*Scope3: WBCSD (World Business Council for Sustainable Development: 持続可能な開発のための世界経済人会議)が提唱した新たな温暖化対策の把握・評価の枠組み。

自社だけでなくバリューチェーンを通じた上流・下流での自社の温暖化寄与を明確にし、これを新たな把握・公開・削減の対象とする。

公平・公正な取引の徹底

お取引先からの提案をオープンに募り、平等な条件でお取引先を選定しています。また、調達部門の新人・異動者には関連法令に関する教育を実施するとともに、調達担当者は年1回、調達スキルのチェックを行い、一定期間で配置換えを実施しています。さらに、コンプライアンスラインをお取引先にも開放し、お取引先からの通報・相談に対応可能な体制を整えています。

サプライチェーンの事業継続

トヨタ自動車株式会社、富士通株式会社が共同開発したクラウドシステム『SCR-Keeper』を運用し、4次までのお取引先の生産場所情報を、当社およびお取引先がいつでも、どこからでも閲覧できるようにしています。

2015年度は、海外6拠点での現地現物を使つての研修など海外における理解を促進する取り組みを展開しました。

お取引先とのコミュニケーション

当社は、品質・コスト・納期・技術・環境保全の5項目における目標をお取引先ごとに設定し、年度末に開催する「仕入先総会」では、優れた実績を収めたお取引先に感謝状を贈呈しています。

2016年3月に開催した仕入先総会では、当社グループの次年度の会社方針・調達方針などをご説明するとともに、15社のお取引先に感謝状、記念品を贈呈しました。



「2016年仕入先総会」には、約160社のお取引先が参加



中尾 清隆 さん
株式会社豊通エレクトロニクス
常務取締役

Voice
お取引先様の声

私たち(株)豊通エレクトロニクスは、カーエレクトロニクス分野に特化した商社とお客様・仕入先様と強固なパートナーシップを結び、自動車産業の新たな可能性を切り開く企業を目指しております。当社は、「2016年富士通テン仕入先総会」において、「技術開発優秀賞」受賞という名誉を頂きました。受賞対象は、「ERA-GLONASS対応、e-Call用通信モジュールの開発」です。

ERA-GLONASS プロジェクトは製品としてロシア現地での認証作業が必要であり、グローバルでの対応力を持つ仕入先様と一緒に、認証ならびに開発における様々な課題を解決してまいりました。

引き続き、仕入先様と一体になって、新しい技術・開発提案をし、貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

「職場力」を高め、ともに成長する

一人一人が誇りをもって働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。

基本的な考え方 「人権の尊重」と「多様性の受容」

富士通テンは、グローバル企業として企業行動指針の基本原則の筆頭に「人権の尊重」を掲げ、人権関連の研修プログラムを実施するなど、従業員の意識啓発に努めています。

さらに、一人一人が持つ多様性を受け入れ、活かすことで、「個人の成長」「やりがいの向上」「企業の競争力強化・成長」につながると考え、ダイバーシティ推進室が中心となって、多様性を尊重する「企業風土の醸成」と「ワーク・ライフ・バランスの推進」、「個人の自立・活躍の支援」に取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランスの推進 —プラチナくるみん認定の取得—

当社は、従業員がライフスタイルやライフステージに応じた多様な働き方を実現し、家庭と仕事を両立することができるよう、育児・介護休職制度をはじめとする各種制度を整備・充実させ、制度の利用を促進するための情報発信や意識啓蒙などを実施しています。また、定時退社日の設定や従業員の意識調査、従業員の子どもが親の職場を見学する「子ども参観日」の開催などに取り組んでいます。

このような取り組みの結果として、2015年5月、兵庫労働局より子育てサポート企業として「次世代育成支援対策推進法」に基づく「特例認定(プラチナくるみん認定)」を受けることができました。



プラチナくるみんマーク

Voice 従業員の声



清水 紀子 CI技術本部 第一技術部 第三技術チーム

■育児休職者の交流会に参加して

産休と育児休職を合わせ約2年間休職したため、復職前は仕事へのブランク、育児との両立など不安なことが多くあり、迷わず交流会への参加を決めました。

交流会では、利用できる制度の説明のほかに、和気あいあいとした雰囲気の中、仕事や育児の悩

み、仕事と育児を両立するコツなどを相談できました。和室の部屋での開催、お菓子や絵本の用意など、子ども連れへの配慮もうれしかったです。

今回の交流会のおかげで、復職後も制度の利用などで困ることがなく、また、交流会の参加者に気軽に相談ができるなど、人の輪が広がっています。

女性の活躍推進

当社は女性の働きやすい職場づくりに努め、女性の採用継続、職域の拡大、仕事と育児を両立するための諸制度の整備・拡充と、制度を利用する風土の醸成などの施策を推進してきました。

2015年度は、これまでの取り組み・施策の見直しから活動をスタート。2016年に施行された女性活躍推進法に先立ち、2015年4月から2020年3月までの行動計画を策定しました。この行動計画に基づき、2015年度は能力・意欲のある女性社員がリーダーシップを発揮するために必要な意識改革と社内ネットワークづくりを目的に、女性社員向けの選抜研修を導入しました。また、管理職向けには、計画的に女性部下を育成するためのマネジメント力向上と意識改革を狙いとした研修や講演会を開催しました。



女性にとっても魅力的な職場であることを女子学生向けセミナーでアピール

TOPICS

女性の活躍を推進する「えるぼし」企業の認定を取得

当社は、女性活躍推進法にて創設された制度に基づき、2016年7月に厚生労働大臣より「えるぼし」企業として認定を受けました。

「えるぼし」は、行動計画の策定および策定する旨の届け出を行った企業のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの状況が優良と認められる企業が認定されるものです。当社は、「採用」「継続就業」「労働時間」「管理職比率」「多様なキャリアコース」という5つの項目がすべて基準を満たしていることから、最高ランクの「3段階目」を取得しました。



えるぼしマーク(3段階目)

人材育成

「自らを磨き続け、さらに人材を指導・育成し続ける人づくり」をスローガンに、「自己の能力は自ら開発する」という考え方に立ち、各種教育プログラムを実施しています。

具体的には、全従業員を対象とした階層別教育や専門教育に加え、従業員が自発的に受講する「テナアカデミー」を開設し、「専門知識(技術)」「経営・マネジメント」「グローバル」などの分野で、集合研修やeラーニング講座を展開しています。

また、「職場若手育成制度」により、若手社員を職場ぐるみで育てる風土の醸成に力を入れています。



テナアカデミー「財務会計基礎コース」開催の様子



技術系社員を対象とした「設計実践力セミナー」の様子

技術開発者の発明創造力を向上

技術系人材を多く擁する当社は、「重点開発テーマを中心に、イノベーションの視点で発明をとらえ、強い特許として出願する取り組み」の一環として、従業員の発明提案に対するモチベーションを向上させ、発明創造活動の活性化に取り組んでいます。2015年度には、発明提案・特許出願について優れた活動を行った個人や部門に対する表彰、技術イベント「テクノワーク」での発明事例を紹介する展示会などを実施しました。



テクノワークの発明展示会。「他部門の発明の取り組みを知ることができ、有意義だった」と好評

安全衛生マネジメント

2012年8月、安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるOHSAS18001と環境マネジメントシステムISO14001とのグローバル複合認証を、本社を中心とした8拠点を対象範囲として取得しました。

以来、環境分野において既に定着している「グループでPDCAを回すしくみ」との複合化を図ることで、そのノウハウを活用し、マニュアルや帳票などの共通化を進め、効率的なマネジメントをグループ全体で推進。グローバルに運用することで拠点間における情報共有が進むとともに、対象範囲における統制が効率良く図れるようになり、2016年8月現在で、6か国9社10拠点※に対象範囲を広げています。

※本社拠点、富士通テンマニュファクチャリング 中津川工場・小山工場、富士通テクノセブタ、天津富士通天電子、FTEW、FTCP、FTTL、FTdM、FTESA

富士通テンス페인(FTESA)は、2015年8月にISO14001/OHSAS18001のグローバル複合認証を取得しました。

外部審査では指摘が「ゼロ件」となり、人事総務部と品質・環境部のリーダーシップのもと、全

社で活動に取り組んだ結果だと大変嬉しく思います。

今後は、労働安全衛生の統合されたしくみを活かして、環境パフォーマンスと作業安全の継続的改善に取り組んでいきたいです。



Voice
従業員の声

Laura Vela Lora
富士通テンス페인(FTESA)

労働災害の防止に向けたリスクアセスメント

職場の中の労働災害リスクに対して、職場ごとの調査を通じて危険源を抽出し、評価の上、適切な対策を実施するリスクアセスメント活動を実施しています。2015年度はリスク対策の立案・実施を支援するツール『対策事例集』を作成し、職場へ展開するとともに、個別のフォローを実施し、レベルの向上を図りました。

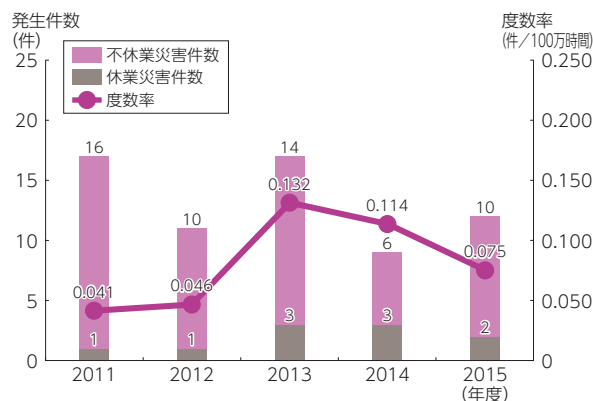
労働災害発生状況

当社グループにおける、休業・不休業の労働災害の発生件数は2008年度から減少傾向にあり、2011年度から2015年度は20件を下回る状況で推移しています。

2015年度の休業件数は、昨年度よりも抑えることができたが、不休業災害は増え、休業・不休業災害の合計数は3件増加という結果となりました。2015年度は、前年度に多かった不安全状態での転倒災害の対策として、転倒に起因する危険源を洗い出し、危険箇所の改修や注意表示の改善などハード的な対策を実施しました。

2016年度は、これまでの対策に加え、不注意による転倒も防止すべく、本人の意識に呼びかける活動にも取り組みます。

■ 労働災害発生件数・休業1日以上の度数率(連結)



※度数率:業務上休業災害件数÷延労働時間×1,000,000

心と体の健康支援

2015年度は引き続き、「心身の疾病予防活動」へ軸足を移して施策を展開し、セミナーの開催や健康指導を通じて従業員の健康意識向上の啓蒙を図り、生活習慣病の予防に努めました。また、メンタルヘルス対策として、産業医や産業カウンセラーが従業員の心のケアにあたり、ストレス診断などで見つかった高ストレスを抱える希望者に対して、面談によるフォローを実施しました。

社会・地域から信頼される企業をめざして

ステークホルダーとのより良い関係づくりに努め、「誠」を中心とした企業理念を実現していきます。

基本的な考え方

2002年4月、従業員のあるべき行動の姿を明文化した「富士通テングループ企業行動指針」を定め、2010年2月には、ステークホルダーの皆様に対して果たすべき責任と、CSRに関する富士通テングループのあるべき姿を宣言するものとして「富士通テングループ企業行動宣言(CSR方針)」を策定しました。これらを運用することで、ステークホルダーの皆様とのより良い関係づくりに努めるとともに、「誠」を中心としたお客様と社会への貢献という企業理念を追求し、実現させてまいります。

WEB 富士通テングループ企業行動宣言(CSR方針)

コーポレート・ガバナンス

富士通テンは、2010年6月に執行役員制度を導入するとともに、取締役については、株主およびグループ全体の立場に立った経営監督機能に集中することとしました。これらにより取締役会のスリム化、取締役会での議論の活発化、意思決定の迅速化を実現することができました。

また、会社法の改正に伴って改定した「内部統制システム基本方針」に基づく運用状況の確認を進め、ガバナンス構造の強化と適正なリスクコントロールの強化を図っています。

リスクマネジメント

「富士通テン株式会社内部統制システム(基本方針)」に基づく活動を展開し、「リスク・コンプライアンス委員会」が中心となって、潜在リスクの抽出や評価、未然防止策の検討、実行状況の確認などを推進しています。

事業継続マネジメント

事業継続計画とともに、南海トラフ大地震に備えて、神戸本社地区を中心に防災計画を整備しています。発生時の初動、避難行動について防災マニュアルを策定し、毎年の防災訓練を通じて防災の基本行動強化に取り組んでいます。



神戸本社では、対策本部の指示のもと、地震・津波を想定した防災訓練を実施(2015年11月)



富士通テンマニュファクチャリングは初めての夜間防災訓練を実施(2015年11月)

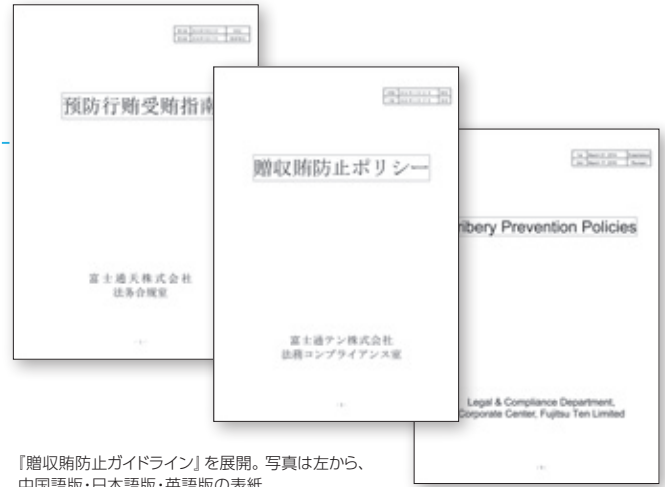


東京事業所での防災訓練の様子(2015年11月)

コンプライアンス

事業活動に関わる法規制などを明確化するとともに、社内ルール、教育プログラム、監視体制を整備しグループ全体でコンプライアンスを推進しています。

2015年度は、重点コンプライアンス・リスクへの対策として、主に、「贈収賄防止」および「マイナンバーを含む個人情報管理の強化」に取り組みました。



『贈収賄防止ガイドライン』を展開。写真は左から、中国語版・日本語版・英語版の表紙

内部通報制度

国内グループ会社の従業員向けに、内部通報・相談を受け付ける「コンプライアンスライン」を設置し、お取引先にも開放しています。2013年8月から、海外現地法人にも内部通報窓口「Fujitsu-Alert」を導入。現地だけでなく本社にも通報が届くしくみを整備し、グループ内での連携を強化しています。

情報セキュリティ

社会一般のICT化の進展に伴う情報リスクの高まりに合わせて、各種規定の整備や自主監査を実施するなど、富士通株式会社と連携しながら情報セキュリティの強化に努めています。

このような取り組みの一環として、2016年4月1日に情報セキュリティ総轄責任者(Chief Information Security Officer)、セキュリティ統制室を設け、情報セキュリティの保護や啓発などの取り組みを行っています。

Voice 従業員の声



足立 悟郎 セキュリティ統制室EX

以前より、さまざまな情報セキュリティ施策を実施してきました。そのような中、情報セキュリティレベルの維持・向上は、「いかに従業員がこれを理解し、“自分事”と感じて実行するか」にかかっていると実感しています。それを実現する一助として、6月から、毎月第2月曜日を「セキュリティ

Day」として情報セキュリティの情報を発信し、標的型攻撃の対応、情報漏えい抑止策などを紹介しています。専門用語だらけで難解にならないよう、事例を盛り込みながら、わかりやすい紙面づくりを心がけています。

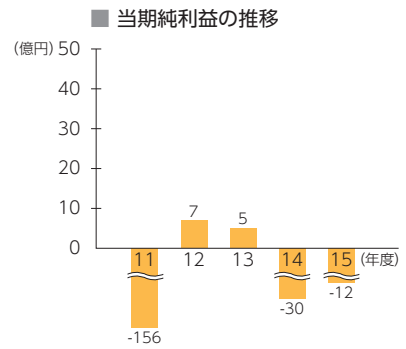
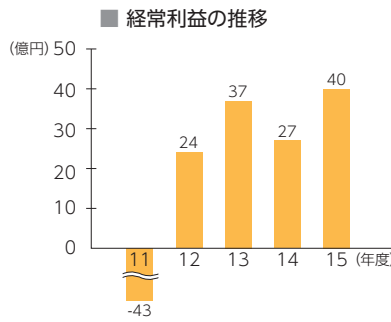
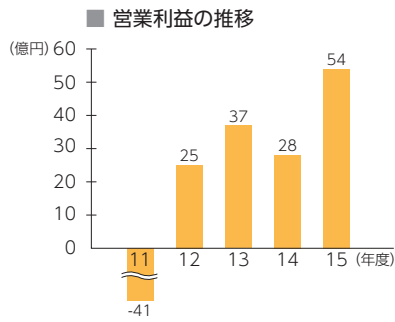
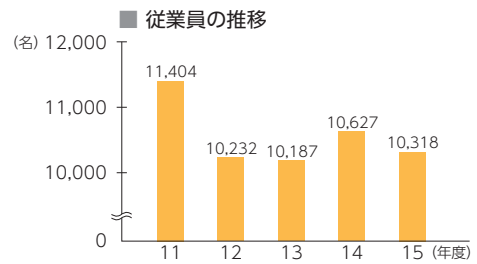
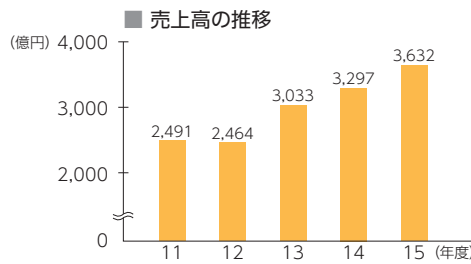
知的財産の保護・活用

「FUJITSU Way」の行動規範および「富士通テングループ企業行動指針」のもと、当社は知的財産権の取り扱いにおいて、他者の権利を尊重すると同時に、他者による当社の権利侵害に対しては毅然とした態度で臨んでいます。さらに、具体的な業務上のルールを定めた「知的財産権取扱規程」を運用しています。

また、「重点開発テーマを中心に、イノベーションの視点で発明をとらえ、強い特許として出願する取り組み」を進めています。
(P.22)

財務報告(連結)

※記載金額は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しています。



会社概要

社名 富士通テン株式会社
所在地 本社
 〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28
 TEL 078-671-5081
代表者 代表取締役会長 重松 崇
 代表取締役社長 山中 明
設立 1972年10月25日
資本金 53億円(2016年3月31日現在)
株主 富士通株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 株式会社デンソー

主な事業

- V-ICT事業
クラウド型ドライブレコーダー、緊急通報システム、マルチアングルビジョン、ミリ波レーダーなど
- CI事業
ディスプレイオーディオ、カーナビゲーション、CDチューナーなど
- AE事業
エンジン制御ECU、エアバッグECU、ハイブリッド車用ECU、電動パワーステアリングECUなど

事業所一覧 販売/生産/研究・開発/物流・その他

WEB 事業所一覧

*印の拠点は本報告書の報告範囲に含まれません。

■国内拠点

富士通テン株式会社
 富士通テンマニュファクチャリング株式会社
 富士通テンテクノセプタ株式会社

富士通テン販売株式会社
 富士通テリサーチ株式会社
 富士通テンスタッフ株式会社

富士通テンテクノロジー株式会社
 富士通テンサービス株式会社

■海外拠点

アジア/オセアニア

- オーストラリア FUJITSU TEN (AUSTRALIA) PTY. LTD. (FTAL)
- フィリピン FUJITSU TEN CORPORATION OF THE PHILIPPINES (FTCP)
FUJITSU TEN SOLUTIONS PHILIPPINES, INC. (FTSP)
FUJITSU TEN (THAILAND) COMPANY LIMITED (FTTL)
- タイ FUJITSU TEN (SINGAPORE) PTE. LTD. (FTSL)
- シンガポール FUJITSU TEN MINDA INDIA PVT. LTD. (FTMI)*
MINDA F-TEN PVT. LTD. (MFTL)*
- インド PT. FUJITSU TEN MANUFACTURING INDONESIA (FTMID)
PT. FUJITSU TEN AVE INDONESIA (FTAI)*
- インドネシア FUJITSU TEN KOREA LIMITED (FTKL)
- 韓国 富士通天(中国)投資有限公司 (FTC)
天津富士通天電子有限公司
富士通天電子(無錫)有限公司 (FTEW)
富士通天(天津)精密電子有限公司*
- 中国 富士通天国際貿易(天津)有限公司 (FTTT)
富士通天研究開発(天津)有限公司 (FTRT)

ヨーロッパ

- スペイン FUJITSU TEN ESPAÑA, S. A. (FTESA)
- ドイツ FUJITSU TEN (EUROPE) GmbH (FTEG)

米州

- アメリカ FUJITSU TEN CORP. OF AMERICA (FTCA)
TEN TECHNOSEPTA USA, INC. (TTUI)*
- カナダ FUJITSU TEN CANADA INC. (FTCI)
- メキシコ FUJITSU TEN de MEXICO, S.A. de C.V. (FTdM)
- ブラジル FUJITSU TEN DO BRASIL LTDA. (FTBL)

CSR 報告書2016を読んで

全 体

富士通テングループの昨年度までの報告書と比較して、今年の報告書の特徴は、まず名称が『社会・環境報告書』から『CSR 報告書』に変わり、「企業理念」や「企業行動宣言」を前面に出したものとなっていることです。この企業行動宣言は、CSR方針として、様々なステークホルダーと共に共有価値を創造(Creating Shared Value)していこうとする内容となっています。過去の報告書に見られる開示姿勢(詳細な説明、豊富なデータ、ステークホルダーの視点など)を踏襲しながら、「企業理念」に沿った多様でグローバルなCSR活動内容を知ることができます。また、ダイジェスト版と詳細版の報告書が発行されたことで、ステークホルダーの情報ニーズに合わせて、活動内容がより広く届けられることが期待されます。

環 境

CSRの様々な側面の中でも、海外拠点を含めグループレベル・グローバルレベルで早い段階から取り組みがなされ、継続的なレベルアップが達成されているのが、環境問題への対応です。『CSR 報告書2016』からは、例えば、CO₂排出総量(国内)が過去5年間で約17%削減されたこと、グローバルでは売上高単位あたりCO₂排出量を約28%削減したことなど、大きな成果が確認できます。過去の報告書に見る実績と比較しても、目標と実績の両方のレベルがさらに高くなっていることがわかります。廃棄物削減や有害化学物質削減等についても同様です。また、グリーン調達ガイドラインや仕入先CSRガイドラインとその改訂を通して、サプライチェーンを取り込んだ取り組みとそのレベルアップもなされています。さらに、環境監査結果や、環境リスク対応としての土壌・地下水汚染対策に関する情報など、ネガティブ情報を含んだ公正な情報開示もなされています。なお、『CSR 報告書2016』では、2012年から報告書本体とは別に開示されていた環境データ集が一体化され、サプライチェーンを含むScope 1~3の温室効果ガス排出量、環境会計、サイトデータなども一覧できるようになり、より読み応えのある報告書となっています。

社 会

本業を活かした様々な社会貢献活動に加え、とりわけ、ワーク・ライフ・バランス推進に関する先進的な取り組みが目を引きまします。それは、女性活躍推進に関する「えるぼし」企業認定にも表れています。また、特集で紹介されているように、富士通テングループの事業のグローバル化が進む中で、CSR視点でのマテリアリティ(重点課題)の特定が行われたことは、今後のグローバルな事業活動をより力強いものにし、さらにそれが企業価値を高める好循環に繋がるとを期待します。

今後に向けて

私は学生時代に、宇沢弘文著『自動車の社会的費用』を読んで、自動車の社会的費用の大きさに驚き、その社会的費用(自動車事故や大気汚染等)の内部化の必要性に共感したものです。時を経て、富士通テングループのCSR報告書を読んでまず感じたことは、3つの事業ビジョンのうちの2つ「安心・安全(V-ICT事業)」「環境(AE事業)」の、事故を未然に防ぐ安全運転支援システムや排出ガス低減技術を通して、『自動車の社会的費用』が約40年前に提唱した、自動車の社会的コストの内部化が実現されつつある、ということでした。事業そのものがCSRと重なり、そしてそれは社名の由来の「天」や、企業理念の「誠」と結びついている。それならば、企業の短・中・長期の価値創造プロセスの中に、経営理念(ミッション)、事業ビジョン、「Future Link」のコンセプト、CSR方針、環境中長期ビジョン、CSRの重点課題などを明確に位置づけることができるのではないかと思います。これは、企業の長期の価値創造能力に影響を与える(環境・社会を含む)経営資源、各ステークホルダーの要求、財務実績などの統合性と相互関係を考慮し、統合的な意思決定を目指す統合思考(Integrated Thinking)やそのディスクロージャーである統合報告(Integrated Reporting)*にマッチします。これまでの富士通テングループのCSR活動の経験と実績を活かして、より強いメッセージを生み出す一つの方向性ではないかと思います。

*国際統合報告評議会(IIRC)の国際統合報告フレームワークより



阪 智香 (さかちか)

関西学院大学商学部教授、カリフォルニア大学アーバイン校客員研究員商学博士。現在、日本学術会議連携会員、日本社会関連会計学会理事、全国ビジネス系大学教育会議理事等。著書に『環境会計論』(東京経済情報出版)等。日本会計研究学会 学会賞等受賞。

ご意見をいただいて

阪先生にご意見をいただくのは、今年度が初めてとなりますが、過去の報告書までさかのぼって経年の取り組みをご確認していただき、また忌憚のないご意見を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

私たちは、企業理念や企業行動指針を軸に、これまで評価をいただきました先生方からのご意見を参考に、少しずつCSR活動の浸透を図ってきました。現在、アクションプランの策定に向け、ISO26000に準拠したCSR活動を推進しており、今年は、当社が今後重点的に取り組むべきCSR課題を明確にしました。

これに伴い、本報告書も今年度より「社会・環境報告書」から「CSR報告書」へと名称を変更し、当社のCSRの姿勢をより全面に打ち出したものにしたほか、ステークホルダーの皆様のおさまざまなニーズにお応えできるよう「ダイジェスト版」と「詳細版」の2つを発行しています。

特に評価をいただいた「環境」の取り組みについて、環境中長期VISIONに基づく経年での環境負荷削減やネガティブ情報も含めた透明性のある情報公開に着目していただき、活動を評価頂いたことは、大変励みになりました。COP21も含め環境問題への対応はさらに重要になっていきますので、引き続き中長期の視点に基づく活動を推進してまいります。

ダイバーシティに関してもより具体的な取り組みの独自性が示せるようになってきました。2016年7月には、「女性活躍推進法」に基づく女性の活躍度を測る認定制度である「えるぼし」の、最高評価となる「3段階目」に認定されました。CSR活動は、その結果以前に企業としての想いを伝え、社会に宣言することに意味があると考えています。

ご指摘いただいておりますとおり、自動車業界の一端を担う当社にとって、いかにお客様・社会の利便性を促進しつつ、安全・安心、環境といった社会課題を克服していくかが20～21世紀の重要なテーマであり、当社は事業活動を通じてこれらに真正面から取り組み、社会に貢献していく事業活動をめざしています。

今後も、これら事業活動と当社CSRとの関連性を明確に打ち出し、「誠」を中心とした経営理念の実践を通じて社会に貢献し、信頼される企業をめざしてまいります。



富士通テン株式会社
執行役員常務

森下 拓

編集後記

今年度から「CSR報告書」として装いも新たに皆様にご提供できたことを嬉しく思います。

より良い報告書とは、正確なことは大前提として、読みやすく理解しやすい読み応えがあることだと思っています。ダイジェスト版では一番に誰もが理解しやすいことを、詳細版では専門家に対して充実した読み応え、活動の詳細に対応できるよう配慮しました。

まだ不十分なことは理解しつつも、皆様に私たちの活動がより正確にわかりやすく届くことを願っております。

ご不明な点がありましたら、是非ご意見をいただければ幸甚に思います。

2016年9月吉日

地球環境室長 山本 崇



富士通グループは、先進的な環境への取り組みが評価され、環境大臣より「エコ・ファースト企業」として認定されました。



「ヒューマンセントリック・インテリジェントサエティ」の実現で、低炭素社会へ。
富士通グループは気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。

発行：2016年9月
次号発行予定：2017年9月

